

海外生活 レポート 59



わた なべ たか ゆき
渡辺 隆之さん

川崎市出身。JICA海外協力隊員として、2023年7月からエルサルバドルにて芸術教育振興の分野で活動中。写真の本は先住民ピピル族の言語と世界観でかかれたレアな『星の王子さま』。著者サン＝テグジュペリの夫人はエルサルバドル出身で、作中に登場する火山はエルサルバドルに実在する火山がモデルになったとも言われている。



普段は学校訪問や教員研修会を通して現地の芸術教育の振興に努めています。

どんな国?

エルサルバドルは、中米に位置する九州の約半分ほどの大きさの国です。太平洋に面しており、目を凝らして海の向こうをよーく眺めると日本の房総半島あたりが……見えません。国内人口が約6百万人なのに対し、米国に住むエルサルバドル系移民は2百万人以上いるとも言われています。ここまで他国への移民が多い背景には、国内の雇用機会が欠如していることや、かつて治安状況に大きな懸念があったことなどが挙げられます。



私が住むチャラテナンゴ県にあるアートとコーヒーの町ラ・パルマ。この国を代表する画家フェルナンド・ジョルト氏のデザインで描かれた美しい壁画が並びます。

らお菓子や飲み物を頂くことも少なくありません。

日本で味わうエルサルバドル

そうは言っても、日本から遠いエルサルバドルまで行くのはハードルが高いと感じる方も多いかもしれません。そんな方に、ぜひ日本で味わってみてほしいのはコーヒーです。当国産のコーヒーは世界的に高く評価されています。近年では日本国内のスペシャルティコーヒーショップやカフェでも見かける機会が増えてきました。将来的には、コーヒーだけでなく、美味しいエルサルバドルの郷土料理も日本で広まると嬉しいなと思っています。



私がこの国で一番好きな料理「マリスカダ(豪華魚介スープ)」。

エルサルバドルのゆくえ

そんな魅力あふれる国ですが、同時に人権侵害や貧困など多くの課題を抱えています。例えば、劇的な治安改善を実現させた現行の治安対策は憲法上の人権保障を制限する強硬策(例:逮捕状なしでの逮捕を認めるなど)で、冤罪逮捕や拷問などの人道上の問題を生んでいると指摘されています。私自身も治安改善の恩恵を享受する一方で、その裏に潜む人権問題に対して複雑な思いを抱きながら生活しています。現在は、政権のさじ加減次第で国の未来が大きく左右される過渡期にありますが、人々が思い描く安全で自由な未来が達成されることを私は願っています。本寄稿を通じて、遠く離れたこの小さな国の魅力や課題について少しでも関心を持っていただけたなら幸いです。

エルサルバドル共和国



サーフィンの聖地ということで、私も海まで足を運び練習に励んでおりますが…なかなか難しいスポーツです。



地方には色鮮やかなコロニアル様式の家々と石畳の街並みが多く残っています。

エルサルバドルの魅力

この国は、過去に内戦やギャング問題など多くの悲しみを経験してきました。しかし、数年前から治安が大幅に改善し、外国人観光客の数も徐々に増加しています。なんといってもエルサルバドルはサーフィンの聖地として世界的に知られており、海辺には世界中のサーferたちが集まります。その他にも、火山(つまり温泉もあります!)や滝、マングローブなど、美しい自然を満喫できるアクティビティが豊富にあります。私はこの国で野生のイグアナ、クジラ、ワニ、サソリ、ウミガメの赤ちゃん等に出会いました。さらに、コロニアル様式の色鮮やかな古い町並みや、豊かな食材を使った郷土料理、そして心温かいエルサルバドルの人々も、この国の大きな魅力です。先進国の便利さとは一味違う楽しさがあり、冒険心を持つ方や日常の忙しさから解放されたい方にはぴったりの旅先だと思います。旅の道中で困ることがあっても、この国の人々は本当に親切でいつも助けてくれます。お礼にこちらからチップでも渡すべきなのに、むしろ相手の方が

INFORMATION

エルサルバドル共和国

面積	21,040km ²
人口	約649万人
首都	サンサルバドル
言語	スペイン語